



北の経営者たち

▲ 稚内市

公共事業に携わるものとして 地域社会に貢献する企業に

道路や橋梁など道路施設は、産業、経済、文化の発展の基盤であり、私たちの生活や経済活動を支えている重要なインフラです。また、道路は完成した後も末永く保全し、常に安全で円滑な交通の確保を図るために、常日頃から適切な管理が必要となり、改良工事、維持・修繕工事などが欠かせません。さらに、北海道では冬期間の除排雪も極めて重大な仕事であり、公共事業を請負う技術者集団には、シビル・エンジニアリングとしての高い技術と信頼が要求されます。



錦産業の特徴は、高い技術力と圧倒的に道路工事に強いこと。また、最新型のICT機械など建設機械を自社で所有していること。

貝森 貴博さん

錦産業株式会社 代表取締役社長

誠実さと人柄で選ばれる企業に。 地域の守り手としての 社会的役割を果たしていきたい。



国道40号沿い、稚内市朝日に建つ本社。事業所・土木部も同居に。



事務所スタッフ



貝森 貴博さん

1978年2月、稚内市生まれ。1996年、北海道工業高校卒業。2000年、道都大学建築科美術学部を卒業、(株)日栄建設(札幌市)に入社。2005年、(株)日栄建設を退社し、錦産業(株)に入社。2019年1月、同社代表取締役社長に就任。



人生の名言・格言 失敗は成功のもと 失敗の原因を突きとめ 改善していくことで成功に近づく

■会社経営にも通じる野球学

「そんな風に地域のインフラ整備を仕事とする父の姿を見て育った私は、中学から野球を始め、野球推薦で札幌の北海道工業高校に入学することができ、しばらくの間、稚内を去ることになりました。高校時代は監督さんの家に3年間下宿し、15人ほどの部員と寝食を共にしました。2段ベッドが10幾つも並んだ光景は漫画のようで、プライベートスペースもありませんでしたが、今にして思えば、その時の経験がとて役に立ちました。まさに、言うは易く行うは難しですが、集団で生きるための協調性を学び、いつしか我が儘が口を衝いて出るようなこともなくなりました。考えてみると、会社経営にも通じるところがあります。ちなみに高3の夏、一塁手として悲願の甲子園出場を果たしました。対戦相手は、現在、中日ドラゴンズで活躍中の福留孝介選手が当時主将を務めたPL学園(大阪代表)。

■施工管理技術を身につけ帰郷

「大学では一時、コーチ兼監督に就き指導者の経験もしました。野球でも仕事でもそうですが、最初は何をやればよいか、どのようにするべきか、先輩や上司に指導を仰ぎます。もちろん失敗したり、初歩的なミスで叱責を受けること

もあつたでしょう。しかしその原因は他者にあるのではなく、自分自身にあることに気づけば、おのずと修正力と対応力がついてきます。まさに自分自身がそうでした。卒業後に入社した(株)日栄建設(札幌市)さんでは、土木の第一歩と言うべき「丁張り」の掛け方など、基礎的な確認事項を怠り、何度も怒鳴られました。まして日々の現場が多忙を極めると、仕事が苦になつてくるのです。日曜日の夕方のテレビ「ちびまる子ちゃん」で「サザエさん」が終わると「あまた明日から仕事か。行きたくない」と嘆いたものです。その時の経験から「絶対に仕事を苦にしたいけない」という良い教訓を得ました。不思議なもので、失敗を克服し、着実に成果を出せるようになっていくと俄然仕事が面白くなってきます。そうなる、辛いはずの仕事でも「お前には野球で培った忍耐力があるから」と苦情を聞くクレーン係を命じられても、ヘコタレたりすることもなくなるのです。

もあつたでしょう。しかしその原因は他者にあるのではなく、自分自身にあることに気づけば、おのずと修正力と対応力がついてきます。まさに自分自身がそうでした。卒業後に入社した(株)日栄建設(札幌市)さんでは、土木の第一歩と言

うべき「丁張り」の掛け方など、基礎的な確認事項を怠り、何度も怒鳴られました。まして日々の現場が多忙を極めると、仕事が苦になつてくるのです。日曜日の夕方のテレビ「ちびまる子ちゃん」で「サザエさん」が終わると「あまた明日から仕事か。行きたくない」と嘆いたものです。その時の経験から「絶対に仕事を苦にしたいけない」という良い教訓を得ました。不思議なもので、失敗を克服し、着実に成果を出せるようになっていくと俄然仕事が面白くなってきます。そうなる、辛いはずの仕事でも「お前には野球で培った忍耐力があるから」と苦情を聞くクレーン係を命じられても、ヘコタレたりすることもなくなるのです。(株)日栄建設さんでは、羊ヶ丘通や札幌日大高校前の厚別東通の道路工事など、やり甲斐のある仕事に携わることができ感謝しています。現場で身につけた技術と管理者業務で得たノウハウを持ち帰り、2005年に父が社長を務める当社へ入社しました。」

■父が築いた大きな礎を継承
「昨年、創立50周年を迎えました。当社の創業者は私の祖父貝森勝男(現会長・貝森輝幸氏の父)ですが、私が生まれる前年に亡くなっているため会ったことはありません。かなり前に祖父を知る年配の社員に聞いたところ「すごく明るい人でしたよ」とのことでしたが、会長もまた同じ印象を放っていると思います。創業当初は一般貨物の輸送と骨材となる砂の販売などから始まり、重機やダンプ・トラックを利用して施工会社の付帯事業者を経て、やがて施工会社として土木工事に本格参入するようになりました。それ以降の代表的な仕事例として

■地域貢献を使命とした組織体制

「二般社員として3年、課長、所長として35歳までは私も現場でバリバリ働き、常務、専務を経て、2年前に社長に就任しました。その間に私が推進してきたことを一言で表すとすれば「技術と信頼、誠実さと人柄で地域に選ばれる会社づくり」です。そのために人材育成に力を注ぎ、資格取得も全面的に支援してきました。建設車両(作業車含め50台以上)や建設機械(重機大小60台以上)を自前で所有し、最新技術のICT施工に積極的に取り組んでいることも主要受注先の国、北海道、地方自治体から評価されています。おかげさまで国交省北海道開発局より6年連続で工事成績優秀企業(同時に3年度目の局長表彰受賞、また稚内開発建設部長表彰を4度受賞)

ては一般国道40号更喜管内防雪改良工事(延長18・7km)が挙げられます。一部、自動車専用道路として制限速度70kmの規格(ゆずり車線あり)で施工された工事に参画できたことは大変意義深く、父の大きな功績です。ブリザードなど冬期間の視界不良による通行止め解消や、地域のトラクターや原付バイク、自転車などの低速車両用の副道も設け、安全性と快適性に大きく寄与する道路工事でした。豊富バイパス、幌富バイパスとの高速交通ネットワークとの連携も図られ、当社では現在も同40号の稚内道路維持除雪外一連工事、中央電線共同溝設置工事(無電柱化の推進)などを担っています。」

に認定され、さらに災害復旧工事(東日本大震災をはじめ北海道胆振東部地震の際に社員を派遣)においても感謝状をいただき、責任の重さを痛感しているところです。今後もたゆまぬ努力を重ね、国土のインフラ整備と地域に貢献する錦産業であり続けたいと思います。私は現場確認を欠かしません。地域の守り手である彼らを誇りに思います。その勇姿を見てほしい、YouTubeにチャンネルを設けています。ぜひご覧ください。」

YouTubeチャンネル

ユーチューブ 錦産業 検索

最近の建設現場や除排雪、重機オペレーターの操縦の様子などを社長がドローンを駆使し撮影し、自身で編集し配信しています。



錦産業の仕事例

■一般国道40号 幌延町 元町東改良工事

幌富バイパス(高規格道路)延長のための下地盤づくり、仮設工



幌富バイパス ランプR側着手



現場事務所の建設



木や枝、草も完全除去



中央分離帯除去、支柱も抜く



地盤に合わせたセメント改良



区画線除去と引き直し

セメント工事現場/ドローン

仮設バリケード設置 完了

※3.現在の学校名は北海道科学大学高校。それ以前は北海道尚志学園高校。
※4.Information and Communication Technologyの略で、設計データから3Dの完成断面図を見ながらオペレーターが作業できる。データ通り掘削が行なわれるので、誤って掘り過ぎることがない。
※5.年に1度、過去2か年度内に完成した工事の成績により順位付け評価が行なわれている。局長表彰6年連続は道内でも例がない(帯広市に1社5年連続あり)。

Company Profile

錦産業 株式会社
稚内市朝日3丁目2185番14 ☎0162-32-3360 0162-33-7816 http://www.nishikisangyou-inc.jp/
■営業許可/北海道知事許可(特-29)第306号 (般-29)第306号 ■創立/1970年2月 ■資本金/3千万円
■主な業種/土木建築工事業、運送業、砂利・生コン販売業 ■従業員数/80人(有資格総数400以上) ※ベトナム人社員3人雇用

Personal Profile